

三番瀬と自然共生の街づくり



マスコットキャラクター「ハゼちゃん」

2020年10月1日

ふじしろ政夫

三番瀬の保全・再生で街づくりをしていこうという「海を活かした街づくり」が船橋市主催で開催され（2000年）、当時酒店業に従事していた関係で本町通り商店街からその会議に参加させていただきましました。これまでの海に背を向け汚物等を捨てる場所になっていた街づくりを反省し、浄化能力もあり、生物多様性の豊かな人の生活と結びついた干潟・浅瀬とし世界的にも貴重な三番瀬に正面から向き合った街づくりをしようと考えました。そんな思いで船橋市内の市民運動の方と一緒に活動させていただきました。



千葉県議会議員になってからは三番瀬の保全のため「ラムサール条約登録」「漁場の諸課題と解決」をどう実現するか？三番瀬の保全と100%抵触する第二湾岸道路（101hの埋め立て計画の残滓）建設の問題点を指摘し続けました。

森田知事の県政は「高規格道路と工業団地」といった70年代高度成長期の幻想を追い求めるもので、“生態系の中での街づくり・産業作り”に見向きもしない政治姿勢。21世紀は一極集中でなく地域分散型のエネルギー構造と産業構造の新しい社会・経済を創り出す方向性だということを理解していません。ウォーターフロントとしての1800hの三番瀬をワイズユースすることこそ千葉県がより豊かになる道であることも分からないのです。

そして三番瀬を破壊してしまう第二湾岸道路計画が具体的に検討され始めました。

千葉県湾岸地区道路検討会（2020年5/26）の中で「基本方針」がつくられ“外環高谷JCT～蘇我IC～市原IC”までの“湾岸部”に道路ルートを計画段階評価で決定していくとの事。渋滞している状況下に更に千葉港機能の強化・物流施設の開発・港湾地区の活性化といった私企業の経済活動を強化し、“車での物流”を考える。そのための高規格道路（産業道路）をまたまた“海（三番瀬）”に作ろうとしています。



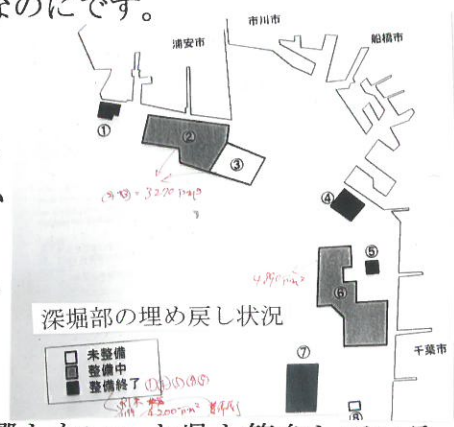
三番瀬会議によって創られた「千葉県三番瀬再生計画」との整合性を図りと言っているが、結局はコロナ禍を作り出した人間の環境破壊・経済活動を何も反省せず貴重な干潟・浅海環境をこわすことによって富を作り出せると思っている政策です。かつての埋め立て事業で掘りまくって出来ている深堀部（1億1000

万立方メートル)も埋めきれず、漁場の再生も出来ず、ラムサール条約登録で人間と自然との共生も実現できていないのに。

“再生エネルギーと自然との共生といったグリーンニューデール”、“社会的共通資本を公の復権で作りに上げていく分かち合いの社会・経済”を創ることがポストコロナの最大の課題であり私たちの責務なのにはです。

県議会の質疑の中で分かったことですが、東京都の港湾浚渫工事との関係で「浅海漁場総合整備事業」(平成8年～)では、深堀部に埋め戻した土砂1立方メートルにつき1000円東京都から千葉県等にお金が入ってきます(2019年度は61万立米で6億1000万円)。でもそのお金を千葉県は県としての穴の埋め戻し事業には使わないのです(?)。

又、「ラムサール条約登録しても漁場に何の影響もない」と県も答弁しているのに何故2漁協は“ラムサール条約より漁場再生のほうが先だ”と言うのだろうか?ラムサール条約登録したほうが漁業水産物のブランド化に大いに役立つのに・・・。



湾岸地区高規格道路計画は第二湾岸道路であり埋め立て事業の復活でしかありません。2011年東日本大震災でそして今日のコロナ禍で人間は自然との共生、生態系の中でしか生かされないことが分かったのにまだ分からず、地球の環境破壊へと歩みを進めようとしています。絶対に認めるわけにはいきません。

三番瀬を一日も早くラムサール条約登録し世界の三番瀬として人と自然との共生社会を創って生きたいものです。

「民主主義と自治そして平和主義」ふじしろ政夫 047-445-9144

***活動報告 HP に掲載「いい鎌ヶ谷ふじしろ政夫」でアクセス出来ます。**